

心不全終末期の緩和ケアに臨む循環器内科病棟の熟練看護師の思考

公立能登総合病院 田中 理紗

循環器内科病棟に勤務する熟練看護師の心不全終末期患者の緩和ケアに対する思考を明らかにすることを目的とし、対象者7名にグループインタビューを実施し言語内容を分析した。

分析した結果、6つのカテゴリーとして【患者から信頼を得るために意図的に色々な会話をする】【患者が辛い状況でも対話できるよう家族との関係性を築く】【段々悪化し死を意識する患者に心不全の理解を促し、思いを表出できるように寄り添う】【細かな変化に気づける十分な知識と情報を持つ】【患者と家族が共に納得して治療に臨むために必要な支援を意識する】【医師と看護師との思いを一致させ、心不全の緩和ケアを深化させたい】という要素が抽出された。

熟練看護師は病態の理解を促しながら患者の思いと病態を統合し、思考を何度も巡らせていた。模索しながらも、対話を重ねた患者と家族にとって望む最期のために支援したいという思考が表出された。